
硝子格子　～チナツ～

岡倉　勝巳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

硝子格子　くちなす

【Nコード】

N0799B

【作者名】

岡倉 勝巳

【あらすじ】

サスペンス？風短編です。（ヒトの関係も道路のように、どこかで誰かとつながっています。）

エアーポンプの音しか聞こえません。

今日はお部屋がとても静かです。こんなことは、年に数回もありません。

いつもここは、賑やかでした。

つい先日まで、夜中まで煌々と明かりがついて、毎日違うお友だちが遊びに来ていたんですよ。

このお部屋の住人は、とても綺麗な女の人。寂しがりやで、誰かと一緒にないと眠れないくらい。

いつも違う男の人が、彼女のベッドに寝ていました。ほとんどの人が、一度きり。

それでも沢山の人が遊びに来るから、平気ね。

みんなヒマになると私の水槽に餌を入れています。

時間とかは決まっていけないけど、彼女が朝食を用意している間に、コ

ーヒーを飲みながら餌を入れてくれます。

私は自慢の尾ひれを見せつけながら、大きな水槽の水面に浮いた餌をいただきます。

二人で覗き込みながら微笑みあっている。

ガラスの向こうに見える彼女、とても幸せそう。

でも4日前、彼女は動かなくなりました。

昼から男の人たちが沢山来て、お部屋を調べていきました。

黒い服を着た人たちばかり。ケイサツの人なんだって。

彼女は白い顔をして倒れていたの。顔が白すぎて、青いくらい。

それにお腹のあたりからは、それはそれは鮮やかな血を流していました。

白い肌に赤が映えて、とっても綺麗だった。私の尾ひれも負けそう

なくらいよ。

彼女をもつと見ていたかったけど、しばらくすると白い布に覆われて、連れて行かれてしまったの。

ケイサツの人つてのは、餌はくれないらしいわ。

それからお部屋には、ずっと前に一度遊びにきたオカアサンが暮らし始めました。

昼も夜も泣いていて、餌を貰い損ねたことも度々あったの。

オカアサンは私を、彼女の名前で呼びました。

チナツ、犯人がつかまったわよ。よかったわねえ、よかったわねえ。

ハンニンの男は、彼女が動かなくなった日の朝、近くのホテルでクスリを飲んで死んでいたそうです。

ハンニンの最後のお手紙に、彼女を殺してしまったこと、彼女を愛していたけど騙されたこと、死んでオワビをすることが書かれていたんだって。

それからケイサツの人がお部屋に来ることはありませんでした。

ハンニンの男の人、私何度か見たことがあったんですよ。

それでもほんの何度か、ね。他の人よりちょっと多いくらいかなあ。彼女が動かなくなる少し前から、ハンニンのお友だちの女の人も、よく遊びにきていたわ。

その度に彼女もお友だちも大声を出して、振動がガラスに伝わるほどだったの。

あの夜も、大声を上げていたわね。

あれは彼女の声だったのかしら。

あの夜は珍しく早々と電気を消して、お部屋の明かりといえば水槽の青いライトくらいだった。

久しぶりに暗闇の中で、水槽のガラスには私自身が大きく映って、

とっても嬉しかった。

こうやってガラスに映った自分の尾ひれを見るのが好きなの。なんせ滅多にみられないからね。

そうやってクルクル踊りながら見つめていたら、水面に手が近づいてきたの。

あら、こんな時間に餌ですか？まあ、ありがたく頂くけれども。

でも餌じゃなかったのね。

水中に手が入ってきて、指先を洗い流すように泳がせて、そのまま出て行った。

後にはうつすらと赤い血が見えたけど、すぐに水に紛れて消えちゃった。

なかなか高機能な浄水機が付いてるのよ。

一瞬鉄の臭いで気分が悪くなったけど、水はあつという間に浄化されて、ホツとしました。

私の水槽で手を洗うなんて、失礼極まりないと思わない？

次の日の朝に絶対彼女に苦情を言おうと思ったんだけど（えらを膨らませて不満を伝えます）、次の日には彼女はもう動かなくなっていたし、どうしようもないわね。

それにしても、あれは誰の手だったのかしらね。青いライトに照らされてガラスの内側に映った白い手。言いくいけど、彼女の手より綺麗だったの。

私が覚えているのは、白く細い指と、美しく整えられたピンクのネイルだったわ。

私の尾ひれにはちょっとかなわないけど。

雨が降ってきたみたいね。

明日にはオカアサンとジツカに行くんだって。

どんなところか、私とても楽しみにしてるんですよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0799b/>

硝子格子　～チナツ～

2011年1月14日14時46分発行